

令和元年第3回魚沼市議会定例会

一般質問通告者一覧表

質問順	議席番号	質問者	質問方式
9月12日(1日目)			
1	2	浅井宏昭	一問一答
2	12	佐藤肇	一問一答
3	10	大平栄治	一問一答
4	3	星野みゆき	一問一答
5	9	佐藤敏雄	一問一答
6	13	関矢孝夫	一問一答
7	1	星直樹	一問一答
8	4	大桃俊彦	一括
9月13日(2日目)			
9	5	大桃聡	一問一答
10	14	高野甲子雄	一問一答
11	7	富永三千敏	一括
12	18	大屋角政	一問一答
13	15	本田篤	一括
14	6	大平恭児	一問一答
15	11	渡辺一美	一問一答

※一括：一括質問一括答弁。質問を一括して行い、それに対する答弁も一括して行う。

※一問一答：初回は一括質問一括答弁とし、再質問以降は一問ずつ質問、答弁を行う。

令和元年第3回魚沼市議会定例会一般質問通告一覧

令和元年9月12日（1日目）

1番（議席2番）浅井宏昭 一問一答

1. 移動投票所の導入について

魚沼市内の山間部に住む高齢者からは、選挙に行きたいけれども遠くて歩いていけない、車がないから投票に行けないという声が上がっている。一人でも多くの有権者から選挙で投票してもらえるように、魚沼市でも移動投票所を採用するべきと考えるが、市長の見解を問う。

2番（議席12番）佐藤肇 一問一答

1. 魚沼から行く尾瀬ルートの課題を問う

- (1) 奥只見遊覧船とバスを乗り継ぐ日帰りコースを予約しようとしたが、尾瀬口から先のバスが満車で予約が取れなかった。予約の対応はどうなっているか。バスの増発はできないか。
- (2) 国道352号は、大雨が降ると落石等の危険があるが、通行止めなどの対策はどうなっているか。
- (3) ルートの間には携帯電話がつかないところが多く、緊急時の連絡も困難である。魚沼市側だけでも携帯中継所の設置ができないか。

2. 新庁舎オープンに向けた計画を問う

- (1) 新庁舎業務開始に合わせ、新庁舎までの公共交通は計画されているのか。現在の乗り合いタクシー、路線バス等の連携はどうか。
- (2) 職員が公共交通で通勤できれば、公共交通の利用度も上がる。職員のニーズ調査等はされているのか。自家用車以外の通勤手段を考える上でも、職員駐車場の有料化は検討課題だと思うが、市長の考えはどうか。
- (3) 内覧会や竣工式、オープンセレモニーは計画されていると思うが、新庁舎に多くの市民が集い、お祝いするようなイベントを計画してはどうか。
- (4) 新庁舎を核としたまちづくりとして、新たな人の流れを考えていかなければならない。地域や商店街との連携が求められていると考えるがどうか。

【メモ】

3番（議席10番）大平 栄 治

一問一答

【メモ】

1. 寿和温泉改修を問う

- (1) 地域からは、「改修工事をするのであれば、使いやすい施設にしてほしい」との要望があった。その後の地域との協議はどうだったのか。
- (2) 市長は、平成29年に発注した寿和温泉改修の設計が無駄にならないようにしたいと言っていたが、改修の中身が変われば設計をやり直さなければならない。無駄にならないようにするにはどういうことか。
- (3) 新たな改修計画はいつごろになれば地域や議会に説明できるようになるのか。

2. 除雪車の無償譲渡を問う

市長は、公益上の必要性がない民間企業の駐車場除雪のために除雪車を無償譲渡したが、そもそも物品や財産を公益上の必要性を理由に無償譲渡するためには、市長が一人で決められるものではなく、議会にも説明しなければならない。公益上の必要性を議会に問うこともせず、無償譲渡ができるとする条例を勝手に解釈して除雪車を無償譲渡したのだから、市長は法令違反をしたと言わざるを得ない。どう責任を取るのか。

3. スキー場について問う

スキー場は魚沼市にある大切な財産であり、市は厳しい財政状況であっても何とかスキー場予算を工面し、運営を続けていかなければならないと考える。市長のリーダーシップで市のスリム化を強力に進め、財源確保に努めていただきたいと考えるがどうか。

4. 代表監査委員の所信を問う

- (1) 星野代表監査委員は、議会という厳粛な場で不誠実な行動を取り、議員を侮辱し、会議の進行を妨害した。このことは、議長からしっかり申し入れをしていただいた。しかし、いまだに議会に対し反省の弁も、今後どうするのかも伺っていない。このことを代表監査委員はどう考えているのか。
- (2) 監査委員は、議長を通じ「監査結果に対する不服申し立て等」に関する書籍の写しを配付した。監査委員の監査結果について、異議を言ったり質疑をすることは認められていないことは承知している。監査結果が不満な時は住民訴訟するしかないことも知っている。私は、監査結果について質問したわけではない。あの文書は何のために出したのか。

- (3) 監査委員が出す監査文書はれっきとした公文書である。公文書の中に人を侮辱するような文言を記載してよいわけではない。「請求人の主張は単なる憶測で、行政上の判断等の問題に対する主観的見解を述べたに過ぎない」と、請求人を侮辱している。どのような考え方で監査書類を作成したのか。
- (4) 代表監査委員は、市長の推薦で代表監査委員に就任したものの、代表監査委員の職責をどのように認識しているのか。また代表監査委員は、自らを人格が高潔でその職責に足る識見を有する人物であるといえるか。

5. 職員任命権者の市長責任を問う

これまで私は、斎場のごみ問題、寿和温泉大規模改修の問題、細野の除雪車無償譲渡の問題など、行政事務の進め方に間違いがあると指摘してきたが、担当職員は自己肯定の言い訳ばかりで全く改善の姿勢を示しておらず、いまだに事実でない答弁を繰り返している。このような職員は、魚沼市の職員としてふさわしくないし、魚沼市のためにならない。ところが、市長はこのような職員を昇進させている。常識では考えられない。市長の責任を問う。

4番（議席3番）星野みゆき 一問一答

1. 児童・生徒の安全確保のためのスクールバスについて

- (1) 高齢ドライバーによる事故が増えている。スクールバスの運転手に年齢制限が必要と思うがどうか。
- (2) スクールバスに幼児バスを利用しているところもあるようだが、安全面に問題はないか。
- (3) 運行管理業務の入札方法及び契約年数はどのようになっているか。
- (4) 安全策の徹底を図るとのことだが、安全策とは何か。
- (5) 魚沼市通学バスの運行基準の条件について
- ① 距離的条件の基準値である集落センターがないところはどこが基準値なのか。また合同の集落センターなどはどう考えるか。
 - ② 地理的条件でスクールバスを認められている地域は何か所あるのか。

5番（議席9番）佐藤敏雄 一問一答

【メモ】

1. 魚沼市の財政計画について問う

新潟県知事は、県財政の危機的状況の中で、行政改革推進本部の立ち上げや有識者会議の設置などを通じ、知事報酬の20%削減等大胆な行動計画策定に取り組んでいる。

魚沼市の財政は、財源の大半を地方交付税、市債、国県支出金などに依存しており、自主財源である市税においては微増しているものの人件費を賄えない厳しい状況下にある。こうした中で、県平均をさらに上回る急激な人口減少と少子高齢化の傾向は続いており、将来的には新潟県以上の危機が訪れるものと思われる。

今回、平成30年度決算が確定するが、確定値と県の行政改革推進会議の行動計画を踏まえた上で、魚沼市としての行財政改革について、市長の方針を問うとともに、以下について提案する。

- (1) 新庁舎の完成を踏まえ、さらなる業務の効率化を図り、外部発注を含め、一層の正規職員削減を図るため、定員適正化計画の見直しに取り組むべきと考えるがどうか。
- (2) 従来予算にこだわらずに、補助金等の費用対効果を検証し、マイナスベースからの見直しを進めるとともに、主要事業についても、選択と集中の考えのもとで、最小の経費で最大の効果が期待できる予算編成に取り組んでいただきたいがどうか。
- (3) 魚沼市内の給与所得者の平均に比べ、魚沼市職員の平均給与は高い。市内経済や給与水準の実態を勘案して、定期昇給の見直しや、寒冷地手当・住居手当などの廃止や見直しを求めたいがどうか。

6番（議席13番）関矢孝夫 一問一答

1. 成年後見制度利用促進基本計画について

平成28年5月に施行された成年後見制度利用促進法において、市町村の講ずる措置等が規定されており、市町村は、国が定める成年後見制度利用促進基本計画を勘案して、当該市町村の区域における成年後見制度の利用の促進に関する施策についての基本的な市町村計画を定めるよう努めるとされた。また、平成29年3月に閣議決定された国の基本計画では、市町村に対し、地域連携ネットワーク・中核機関に期待される機能の段階的・計画的整備に向け、市町村計画を定めるよう努めることを求めている。本市において基本計画をつくる考えはあるのか、市長の見解を問う。

2. 終活登録事業について

認知症の高齢者や一人暮らしの高齢者の増加に伴い、身寄りがいない人の入院及び医療にかかる意思決定が困難な人の事例が多くなってきている中、本人が元気なうちに、緊急連絡先、かかりつけ医師やアレルギー等、エンディングノートの保管先や預け先、医療行為の意思、遺言書の保管場所とその場所を開示する対象者の指定などの終活関連情報を登録する、仮称「終活情報登録伝達事業」を導入する考えはないか、市長の見解を問う。

7番（議席1番）星 直 樹 一問一答

1. 学校給食米について

- (1) 地元産の魚沼コシヒカリを新潟県学校給食会に手数料を払ってまで発注するメリットは何か。
- (2) 発注先を魚沼市内の農業関係者に変更し、手数料等の削減分を保護者負担の軽減と生産者への還元にあてるべきと考えるが、教育長の見解を問う。

2. 災害対策について

湯之谷地区寺沢（大沢）は降雨と同時に急激に増水する地形のため、昔から大雨のたびに被害が出ている。砂防堰堤の整備など根本的な安全策が必要と考えるが、市長の見解を問う。

3. 市内スキー場の今後について

市内スキー場の将来展望について市長の見解を問う。

8番（議席4番）大 桃 俊 彦 一括

1. 薬物（大麻）から子供たちを守るための指導について

「ダメ。ゼッタイ。」を合言葉に学校・地域・社会で子供たちを守らなければならない。薬物大麻の有害性の薬理作用、依存症、後遺症などを小学生・中学生に指導するにあたり、有識者により指導をする、交通安全教室などとあわせて指導を実施する、教員が知識を身につけて指導に当たるといった方法を検討し、指導するべきと思うが、市長の見解を問う。

2. 夏休み合宿者の体育館利用に対してのクレームについて

- (1) 利用する体育館に競技用の用具が置いていない。利用許可申請時に説明が必要と思うがどうか。
- (2) 各体育館の用具は把握しているか。
- (3) 体育館の用具庫に必要な用具がなく、ほかを探したが見つからず使用できなかった。原因と今後の対策について問う。

- (4) 体育館利用が、ほかの利用者と重なり移動させられた。
原因と今後の対策について問う。
- (5) 夏休み合宿期間の利用が優先され、一般利用ができない
との声があるようだが、現状はどうか。

令和元年9月13日（2日目）

【メモ】

9番（議席5番）大 桃 聰 **一問一答**

1. 除雪車の作業運行管理について
除雪車の運行管理は適正に行われているか。
2. 旧井口小学校跡地整備工事について
完成後の維持管理費用はどのくらいかかる見込みか。
3. 小出郷図書館の3、4階の利用計画について
計画の進捗状況はどうか。
4. 平成31年度市県民税の課税誤りについて
議会に報告もしないで、プレスリリースしたことは議会軽視ではないか。
5. 寿和温泉の引湯管について
被害状況と現状及び復旧の見込みと対策はどうか。
6. スクールバスの交通事故について
事故の原因究明と再発防止策の策定はどうか。
7. 斎場建設瑕疵担保請求について
前回の答弁ではお盆前に再度伺い催告するということであったが、どうなったか。

10番（議席14番）高 野 甲子雄 **一問一答**

1. 介護職員の確保策について
 - (1) 市では高齢者福祉計画、介護保険事業計画において多くの施策が検討され、実施されている。それらの施策を実行するにあたっての最大の課題は人材と財源の確保と考えるが、市長の認識はどうか。
 - (2) 全国的にも介護職員の不足は大きな課題である。市内の介護職員は不足しているという認識でよいか。
 - (3) 給料が安いことも介護職員不足の大きな要因と考えるが、市長の見解はどうか。
 - (4) 報酬、処遇改善について市独自の改善策は検討されているか。
 - (5) 介護職員不足対策として、市の臨時職員として介護職員を採用し、住民の要請、施設の要請に応じるという体制は考えられないか。
2. 放射性廃棄物の処分について
旧大沢浄化処理場に保管してある放射性廃棄物の処分は、このままで封じ込めとするのか、最終的にどのように措置を行おうとしているのか考えを問う。

11番（議席7番）富永三千敏 **一括**

1. 文書管理における公文書、歴史的資料等のデータ化の推進について

- (1) 各課で作成する公文書の保管などの手続きや管理はどうなっているか。電子データの保管の現状はどうか。電子データとして保管している公文書の割合はどの程度か。
- (2) 歴史的文書や古文書などの保管場所が数カ所にわたるようだが、全てのものの収蔵保管や目録作成など管理は適正にされていると考えるか。
- (3) 文書管理規程では保存期間を6種に分類している。保存期間の短いものであっても歴史的価値や後世の参考になるものは長期に保存する必要がある。全ての文書作成から保存までを紙媒体保存のほかに電子データ化するべきと考えるがどうか。
- (4) 新たに公文書館を整備する考えはないか。文書管理規程を条例にするべきと考えるがどうか。

12番（議席18番）大屋角政 **一問一答**

1. 消費税増税について

政府は、ことし10月から消費税10%引き上げを強行するようだ。軽減税率やプレミアム商品券、複雑なポイント制度などを考えているが、本質は変わらず逆進性によって低所得者ほど重い税負担となる。消費税増税に頼らない道もあり、内部留保が440兆円と過去最高になった大企業やごく一握りの富裕層から税金を徴収し、防衛費の削減や不要不急の大型公共事業をやめることによって増税分以上の財源が確保できる。世界情勢も困惑している中での増税は今からでも中止すべきと考えるが市長はどう考えているか。

2. 雪の利用について

魚沼地域は豪雪地帯としても有名である。この豪雪地帯だからこそできる事業展開を考えてはどうか。例えば、雪のない国に雪を輸出するとか、国内でも雪のないところにイベントなどで使用してもらうなどが考えられる。こうした発想を具体的にしていくには、行政・市民・事業者が一体となってプロジェクトチームをつくり検討を重ねていくことだと考える。魚沼にある雪を資産と見てどのように活用するか検討してみてもどうか。

13番（議席15番）本田 篤 一括

1. 第4次産業革命に対応した自治体を

ドローンによる独居高齢者の安否確認、自動走行によるコミュニティバスの運用、LINEによる住民票オンライン申請など、これら先端技術を活用して自治体でできることはたくさんある。コスト面での課題もあるが、きめ細かい市民サービス、人的資源の有効活用といった視点では魚沼市も積極的に取り入れていくべきと考える。現状では魚沼市ICT推進計画というものもあるが、さらに飛躍し、第4次産業革命に対応した自治体となるべく、調査研究あるいは計画等を作成するなどの取り組みを今こそすべきと考えるがどうか。

2. ネット依存対策について

- (1) 子供たちのネット依存に対する環境づくりは、社会全体で考え支えていくべきと考えるがどうか。
- (2) 中学生を中心に、より踏み込んだ実態調査を行うべきと考えるがどうか。
- (3) 保護者のみならず、市民に対しても啓発活動を行うべきと考えるがどうか。
- (4) 周知・啓発によって依存症傾向を早期に発見し、医療機関などと連携した予防や治療のプログラムにつなげるべきと考えるがどうか。

14番（議席6番）大平 恭児 一問一答

1. 身寄りなし問題について

- (1) 本人の同意が求められる医療介護サービスの現場では、ひとり暮らしの身寄りがない方々の対応に大変苦慮されていると聞く。地域でどう支えるかも含め、市はどのような認識を持っているか。
- (2) 身寄りのない方が手術や治療方針を決めるときや、医療同意を求められるときに最も困難があるとされている。その一助に、「うおぬま・米ねっと」を活用して、本人の同意をもとに本人の意思が確認できる情報を載せてはどうか。
- (3) いわゆるエンディングノートなど元気なうちに自分の意思を示していくことが重要とされる。終活などに率先して取り組むべきと考えるがどうか。

2. ケースワーカーについて

生活保護の担当者として、日常的に様々なケースの相談や手続きなどの実務で高い専門性が求められるケースワーカーは、福祉事業にとって非常に重要な職種である。

- (1) 生活支援係4人のうち現在3人で対応しており、資格取得者は4人、現職勤務年数では3年1人、1年1人、1年未満1人だ。異動はどの程度のサイクルなのか。
- (2) 担当ケース数は勤務3年の職員で48世帯、1年の職員で58世帯、1年未満の職員で54世帯となっている。これで十分対応できる体制になっているのか。また、困難ケースが増えてくることが予想される中、今後の体制をどのように考えているのか。

3. 公営住宅について

市営住宅、市有住宅、県営住宅などは市民県民の共有財産である。しかし、その維持管理費、更新費用が財政的に厳しいとして老朽化が著しい住宅から用途廃止及び解体を進めている。

- (1) 本当に厳しい財政状況なのか。使用料と管理費、大規模改修などの関係から収益性はあると考えるがどうか。
- (2) 公営住宅周辺の環境整備、景観整備は必須である。以前聞いたときには、入居者自身が行うべきとしていたが、住生活基本法12条や市条例に基づき管理者の責任で行うべきと考えるがどうか。
- (3) 市は、入居資格には連帯保証人の連署を求めているが、国は住宅管理標準条例で保証人の削除を行いその必要性をなくした。また税の滞納者であっても入居資格を認めている。これらを国に準じ対応すべきと考えるがどうか。
- (4) 今後生活困窮者の増加や移住促進、災害等の被災者への住宅整備も考えると現状の戸数の維持とさらなる公営住宅の整備と更新をすべきである。今後の住宅戸数や住宅の整備をどのように考えているか。

15番（議席11番）渡辺 一美 一問一答

1. 交通弱者対策と地域公共交通網形成計画について

多額の財源を投入し公共交通の維持や交通弱者対策をしているにも関わらず、住民にとっては使い勝手のよい公共交通とはいえない状況がある。そこで、高齢者や障害者、学生などの公共交通利用の促進、高齢者の運転免許返納の促進がはかれるように、市内乗り放題等のパスポートを発行することを提案する。そのほうが多くの住民が公共交通を利用したり、事業者もパスポートを買ってもらおうと営業したりして、利用がふえれば、便数をふやすことも可能になると考える。2040年に向けた持続可能なまちづくりを実現するための地域公共交通網形成計画を策定するにあたり、地域の交通弱者の声を聞き、より多くの方から利用してもら

うために、旧町村ごとの検討委員会を設け、地域住民を巻き込んだ議論を数年かけてする必要があると考えるが見解を問う。

【メモ】